124 トッパンホールプレス
[Jul. 2023] 隔月発行

TOPPAN HALL PRESS

ハーゲン・クァルテット（2017.7.3）© 大窪道治

2023/2024 SEASON［前期］
時代を拓き、未来をまなざす 未知の扉をひらく挑戦者たち

山根一仁（ヴァイオリン）
J.S.バッハ 無伴奏ヴァイオリンのための ソナタ&パルティータ全曲演奏会 Ⅱ
闘うヴァイオリニスト　渡辺和彦

[Schedule 2023.7～12]
[Information]
[Review] トッパンホール アンサンブル Vol.11 ── 弦楽四重奏の新たな風景を現出
ランチタイムコンサート Vol.123 五十嵐薫子（ピアノ）
2023 小澤国際室内楽アカデミー奥志賀 東京公演

2023/2024 SEASON【前期】

コロナ禍の影響を残しつつも、平常に近い状況が戻った現行シーズン（2022/23）。失われた時を取り戻すように、特に春先以降は息つく間なく公演を開催し、その成果はいずれも高評を受けて、メディアで次々紹介されました。来たるシーズンも高い熱量そのままに、トッパンホールは挑戦の扉を叩き続けます。

世界の現在（いま）を感じる最先端のアンサンブル

開館初期からともに歩み、主催公演の柱にして“弦のトッパン”の象徴、**ハーゲン・クァルテット**。コロナ禍での中止を経た今回は、2019年以来の登場です（10月、11月）。プログラムの軸にはモーツァルトとベートーヴェンが置かれ、そこに彼らが「いま、トッパンホールのお客さまと共有したい」と願う作品が丁寧に組み合わされました。ハーゲンQの最新の視点も興味深い3夜、世界最高の弦楽四重奏団の帰還をご待望ください。

もう一方の雄、**フォーレ四重奏団**は12月に帰ってきます。前回は、まさにコロナ禍真っ只なかだった2021年12月。困難に困難が重なる状況をものともせずヨーロッパから飛んできて、本物の音楽に飢え乾いていた私たちに、いつも以上に、生きる希望を感じる心からのライヴを届けてくれました。今回もまた、躍動感満点の圧倒的パフォーマンスで客席を歓びに包み、新たな発見に満ちたステージが用意されるに違いありません。

そして、毎年独創的な企画で、一般的概念を覆す私たちのニューイヤーコンサート。2024年は、**日下紗矢子**（vn）、**ペーター・ブルンズ**（vc）に初登場の**フローリアン・ウーリヒ**（pf）を加えたピアノ三重奏をお贈りします。ヨーロッパの息吹を感じる、トッパンホールならではの、濃密なアンサンブルによる新年の幕開けです。

個性際立つピアノの名手たち

すっかり常連となった、フランスの個性派**アレクサンドル・タロー**（10月）。ソロ4度めとなる今回は、自身の編曲による《ラ・ヴァルス》を含め、またもタローらしい選曲の冴えが味わえる緻密なプログラムです。鮮やかな色彩と陰影を浮かび上げる、一編の物語さながらの“タロー劇場”をご堪能ください。

今年2月、アンナ・ルチア・リヒター（M-Sop）の本格的日本リサイタルデビューを力強くアシストして話題をさらった**ティル・フェルナー**は、早くも11月に再登場。シューベルト晩年の名作とシェーンベルク、それに対置されたモーツァルト、ベートーヴェンの壮大な“ファンタジー”。日本でのキャリアを私たちとともに歩むフェルナーの、充実の現在地と未来を映す、こだわりの一夜をお届けします。

自身の探究をあらわすトッパンホールでの挑戦的ステージが、ここのところ恒例になりつつある**アレクサンドル・メルニコフ**（3月）。今回はドイツ、ロシアの王道作曲家――ベートーヴェン、シューマン、プロコフィエフ、ラフマニノフ――に真っ向から挑む入魂のプログラムが準備されました。独特の感性から立ち上げる熱度の高い音像で、またも客席を沸騰させそうです。

飛躍を期し、挑み続ける邦人たち

コロナ禍を逆手にとり、ここのところ機会を広げて活躍目覚ましい邦人アーティスト。トッパンホールでは特に、開館当初から未来を見据えて根気強く、時間と手間をかけて丁寧に取り組んできた若手育成の成果が、ここにきて一気に花開きつつある、と評価を受けています。

それを象徴するのが、シーズン幕開けのバースデーコンサート。この4月のクァルテット公演でも得難い足跡を刻んだばかりの**周防亮介**（vn）、**笹沼樹**（vc）、往年の巨匠のたたずまいを感じさせる**兼重稔宏**（pf）に加えて、5月末のリゲティ・プロジェクトで世界級とも評されたパフォーマンスが話題をさらった**クァルテット・インテグラ**、昨今成長著しい**小川恭子**（vn）と**中恵菜**（va）、今や日本の室内楽シーンに欠かせない存在となった**田原綾子**（va）、そして穏やかながら熱い実力派**佐山裕樹**（vc）と、挑戦に躊躇のない信頼の顔ぶれを揃えました。プログラムは、シューベルトから新ウィーン楽派へと連なる、ウィーン音楽の系譜をたどる旅。濃密な3部構成で、公演は3時間を予定しています。じっくりリハーサルを重ね、侃々諤々を経て万全の準備で臨むステージ。当日はぜひ、体調を整えてお越しください。

田原、笹沼は、トッパンホールの企画をきっかけに誕生した弦楽トリオ、**Trio Rizzle**でも登場。**毛利文香**（vn）と3人のメンバーの熱意は毎回非常に高く、今回は後半にグリンゴルツ（vn）を迎えることから、さらなる躍進が望めそうです（2月）。

2021年2月の無伴奏がいまも記憶に鮮烈な**岡本侑也**（vc）は、なんとふたたびの無伴奏を（3月）。世界一とも称えられた恐るべき超絶技巧と、それを超える音楽性が瞠目された前回から3年、さらに進化した現在地やいかに…要注目です。

いまや日本クラシック界の顔として人気を博す**鈴木優人**（cemb）のJ.S.バッハシリーズは、今回が最終回（1月）。満員の客席を沸かせた過去2回に続き、《平均律第2巻》でフィナーレを飾ります。

世界の風をまとうトップアーティスト

2021年11月に、日本リサイタルデビューで規格外の才能を聴かせ、トッパンホールに忘れ難い伝説を刻んだ**アレクサンドル・カントロフ**（pf）。今回は、同じく2019年のチャイコフスキー国際コンクールの覇者である**ズラトミール・ファン**（vc）とのデュオで帰ってきます（12月）。2022年のニューイヤーで日本デビューを予定しながら、コロナ禍の影響で出演中止になったファンにとっては、いわばリベンジ公演。トッパンホールの提案によるデュオが、どんな化学反応を生み出すのか、楽しみでなりません。

〈歌曲の森〉シリーズへの度重なる出演が印象深い**イアン・ボストリッジ**（Ten）は、今回は本人肝煎りのスペシャル・プログラムで登場。盟友**ジュリアス・ドレイク**（pf）に加え、コロナ禍で出演中止が続いた**アレッシオ・アレグリーニ**（hrn）がついに待望の登場とあって、とびきりの名手らによる特別なひとときは、待ち遠しいばかりです（1月）。

そして静かなるヴァイオリニスト、**イリア・グリンゴルツ**（2月）。その凄腕ぶりは出演のたび、彼が選ばれし者であることを思い知らせますが、今回の無伴奏は、彼の特別さを知るのに間違いなく“過去一”と言えましょう。グリンゴルツとホールとの信頼関係から生まれた究極のプログラムは、弦のトッパン以外では成立しないと胸を張れるもの。ことにヴァイオリン好きのかたは、聴き逃したら後悔なさること請け合いです。ぜひご予定を。

2023/24シーズンは、ギターの凄腕もご紹介します。優美にして力強い指さばきで、どんな難曲もやすやすと魅惑の音楽へと昇華させる**ラファエル・アギーレ**（10月）。圧巻のテクニックと粒立ちのよい音色での繊細な表現が際立つ新世代ギタリストを、弦の響きに圧倒的自信をもつトッパンホールの抜群の音響でお楽しみいただきます。

秋からも、挑戦の手を緩めないトッパンホールのラインナップ。ぜひご期待ください。

前期ラインナップ一覧

2023年

10/1 (日) 16:00　完　売
トッパンホール23周年 バースデーコンサート
周防亮介 (ヴァイオリン)／笹沼 樹 (チェロ)／兼重稔宏 (ピアノ)
小川恭子 (ヴァイオリン)／中 恵菜、田原綾子 (ヴィオラ)／佐山裕樹 (チェロ)
クァルテット・インテグラ
シューベルト：ピアノ三重奏曲第1番 変ロ長調 D898
シューベルト：弦楽四重奏曲第14番 ニ短調 D810《死と乙女》
ベルク：弦楽四重奏曲 Op.3
ブラームス：3つの間奏曲 Op.117
シェーンベルク：浄められた夜 Op.4

10/4 (水) 19:00　6/14発売
ラファエル・アギーレ (ギター)
ジュリアーニ：大序曲 Op.61
J.S.バッハ：シャコンヌ (無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番 ニ短調 BWV1004より)
メンデルスゾーン：《無言歌集》第1巻より〈ヴェネツィアの舟歌〉Op.19-6
バリオス：大聖堂
ショパン：《24の前奏曲》第15番 変ニ長調 Op.28-15〈雨だれ〉
パコ・デ・ルシア：月に映えて (グラナイーナ)／ルシアのグアヒーラ
ブスタマンテ：ミゾネーラ
ボンファ：リオの散歩道
グティエレス：アルマ・ジャネーラ
ララ：グラナダ

10/21 (土) 17:00　残席わずか
アレクサンドル・タロー (ピアノ)
スカルラッティ：ソナタ
ニ短調 K64／ニ短調 K9／ホ長調 K380／ヘ短調 K481／ハ長調 K514
グリーグ：《抒情小曲集》より
アリエッタ Op.12-1／祖国の歌 Op.12-8／子守歌 Op.38-1
ワルツ Op.38-7／悲歌 Op.47-7／メロディ Op.47-3／春に寄す Op.43-6
ハリング Op.47-4／夜想曲 Op.54-4／蝶々 Op.43-1／鐘の音 Op.54-6
トロルハウゲンの婚礼の日 Op.65-6
ドビュッシー：《前奏曲集 第1集》より
デルフォイの舞姫／野を渡る風／雪の上の足あと／沈める寺
亜麻色の髪の乙女／西風の見たもの
ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ
ラヴェル (タロー編)：ラ・ヴァルス

〈ハーゲン プロジェクト 2023〉　7/5発売
ハーゲン・クァルテット

10/31 (火) 19:00
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第11番 ヘ短調 Op.95《セリオーソ》
モーツァルト：弦楽四重奏曲第14番 ト長調 K387
ラヴェル：弦楽四重奏曲 ヘ長調

11/1 (水) 19:00
モーツァルト：弦楽四重奏曲第15番 ニ短調 K421 (417b)
ドビュッシー：弦楽四重奏曲 ト短調 Op.10
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第8番 ホ短調 Op.59-2《ラズモフスキー第2番》

11/2 (木) 19:00
モーツァルト：弦楽四重奏曲第21番 ニ長調 K575《プロシア王第1番》
ウェーベルン：弦楽四重奏のための緩徐楽章
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第13番 変ロ長調 Op.130+大フーガ Op.133

11/24 (金) 19:00　7/12発売
ティル・フェルナー (ピアノ)
シューベルト：4つの即興曲 D935より 第1番 ヘ短調／第2番 変イ長調
シェーンベルク：6つの小さなピアノ曲 Op.19
シューベルト：4つの即興曲 D935より 第3番 変ロ長調／第4番 ヘ短調
モーツァルト：幻想曲 ハ短調 K475
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第21番 ハ長調 Op.53《ワルトシュタイン》

12/7 (木) 19:00　7/12発売
フォーレ四重奏団
マーラー：ピアノ四重奏曲断章 イ短調
ベートーヴェン：ピアノ四重奏曲 変ホ長調 Op.16
メンデルスゾーン：ピアノ四重奏曲第3番 ロ短調 Op.3

12/12 (火) 19:00　7/12発売
ズラトミール・ファン (チェロ) **＆アレクサンドル・カントロフ** (ピアノ)
シベリウス：メランコリー Op.20
グリーグ：チェロ・ソナタ イ短調 Op.36
ワーグナー (ポッパー編)：ロマンス (アルバムの綴り)
ショスタコーヴィチ：チェロ・ソナタ ニ短調 Op.40

2024年

1/14 (日) 15:00　9/13発売
鈴木優人 (チェンバロ) **J.S.Bachを弾く 3 ── 平均律第2巻**

1/21 (日) 15:00　9/13発売
トッパンホール ニューイヤーコンサート 2024
日下紗矢子 (ヴァイオリン)／ペーター・ブルンズ (チェロ)
フローリアン・ウーリヒ (ピアノ)

1/23 (火) 19:00　9/13発売
イアン・ボストリッジ (テノール)
アレッシオ・アレグリーニ (ホルン)
ジュリアス・ドレイク (ピアノ)

2/13 (火) 19:00　10/18発売
イリア・グリンゴルツ (ヴァイオリン) ── **無伴奏**

2/16 (金) 19:00　10/18発売
Trio Rizzle meets イリア・グリンゴルツ (ヴァイオリン)

3/10 (日) 17:00　11/15発売
岡本侑也 (チェロ) ── **無伴奏 Ⅱ**

3/13 (水) 19:00　11/15発売
アレクサンドル・メルニコフ (ピアノ)

※各公演の詳細はオフィシャルWEBサイトにてご案内しています
2023年6月中旬現在

闘うヴァイオリニスト

渡辺和彦

山根一仁は何と闘っているのか。なぜあれほど鋭く過酷な音を発するのか、どうしていつもとんがっているのか。

それをずっと考えている。初めて彼のヴァイオリン演奏を聴いたのはかなり以前のことで、日時はもう思い出せない。しかしここ数年、私の中で山根一仁とは「闘うヴァイオリニスト」「怒れる若者」であり続けている。才能ある若き名手が次々と現れるヴァイオリン界にあって、彼ほど攻撃的、アグレッシブな音で渡り歩いている人はいない。ほとんど孤高、日本にあっては彼ひとりだろう。

2022.6.2公演

具体例をあげよう。2022年6月2日トッパンホール（以下同じ）で披露されたショスタコーヴィチのソナタ。共演ピアニストはコンスタンチン・リフシッツ。第1楽章からすでに音は異様に鋭く、重音は潰れ、カンタービレは歌われることがない。1980年代後半まで「日本人には演奏不能」と思われた第2楽章スケルツォではそれがさらに先鋭化され、曲のためもあるにせよ、アグレッシブというよりは日本語の「攻撃的」という形容が最もふさわしい音楽になっていた。最終第3楽章でさえカンタービレは音がきしみ、作曲家の様々な過去の体験や記憶が甦る甘いメロディーが出現するはずの箇所も、フレーズは途切れ気味、表情は素っ気ない。しかしそこから浮かび上がるのは、何を今さらと言われようが、「ソ連」と言われた国家の闇と非情さだった。

その3ヵ月前、2022年3月2日に披露されたバッハ〈無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ＆パルティータⅠ〉は、今回の「ソナタ」全曲と対をなす企画で、この時は「パルティータ」3曲が演奏された。やはりそこでも「とんがって」いた。《第1番 ロ短調 BWV1002》のクーラント＆ドゥーブル。プレスト指定のドゥーブルを猛烈に速く弾くのは近年の通例とはいえ、その表情と速度は鬼気迫るものだった。また《第3番 ホ長調 BWV1006》のプレリュードでは、意図的かもしれないしそうではなかったか、騒音気味の音と奇抜なフレージングに終始。きれいな音を出そうとか聴衆受けしようとか考える以前に、自分の意図が先に行っていた。意地悪な者は「意余って力及ばず」と言うかもしれない。私もある所でそう書いた。しかしそのような強い気概を感じさせる若いヴァイオリニストは他に存在せず、思わず「日本にもこんな若い音楽家がいるのか」と思った。世界は過酷で苦しく安らぎはない。そう考えていることをバッハの音で暗示するヴァイオリニスト。なぜここまで自分を、音楽を追い込んで行くのか。

本人のキャラクター、使用楽器、環境の相乗効果のなせる業（わざ）だろう。しかもこの3つは極めて複雑に絡み合っており、どれかひとつが原因とは思えない。彼のキャラクターがあの鋭角的な音を選択し、今の彼を作っている。または逆に、あの音が今の彼をそうあらしめている。美音をベースに（それに依存してとまでは言わない）自分を形成しているヴァイオリニストは多い。しかし逆は珍しい。そのことが百花繚乱のヴァイオリン界に、彼の確かなポジションを約束している。

バッハの「無伴奏」を連続演奏するのが暴挙ではなく普通のこととなり、「ロシア人以外はほとんど演奏不能」と誤解させたショスタコーヴィチのヴァイオリン・ソナタがヴァイオリニストの通常レパートリーに入る、シュニトケやリゲティが「挑戦する」曲ではなく通常レパートリーとなる、そういう時代になった。レコード会社が新人を育てデビューさせていたことが昔話とされ、若い世代はそれを前提に切磋琢磨している。露骨な表現を持ち出せば、その中で生き残りをはかっている。

2022.3.2公演

山根一仁はヴァイオリンで闘っている。ただし、私は本人と全く面識がないので、本当のところはわからない。案外涼しい顔で「そうですか？ そんなことないと思います。そう聴こえるのはあくまで結果です」と流されるかもしれない。評論する者は勝手な妄想を繰り出す。

とはいえこれは言えるだろう。山根一仁のようなヴァイオリニストは他に居ない。似た存在も見つからない。今のとんがった彼は、聴く価値がある。

（わたなべ・かずひこ／音楽評論家）

山根一仁 (ヴァイオリン)
J.S.バッハ 無伴奏ヴァイオリンのための ソナタ&パルティータ全曲演奏会Ⅱ
2023年7月20日（木）19:00
J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ
第1番 ト短調 BWV1001／第2番 イ短調 BWV1003
第3番 ハ長調 BWV1005
5,500円／ U-25 2,500円　全席指定
特別協賛：清水建設株式会社

写真：©藤本史昭（タイトル・2022.3.2公演）
©大窪道治（2022.6.2公演）

SCHEDULE 2023.7～12 主催公演

トッパンホールチケットセンター (10:00～18:00 土日祝休) 03-5840-2222

日時			公演
7／	20	(木) 19:00	**山根一仁**(ヴァイオリン) **J.S.バッハ 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ&パルティータ全曲演奏会Ⅱ** 特別協賛：清水建設株式会社
10／	1	(日) 16:00	**トッパンホール23周年 バースデーコンサート** 周防亮介(ヴァイオリン)／笹沼 樹(チェロ)／兼重稔宏(ピアノ) 小川恭子(ヴァイオリン)／中 恵菜、田原綾子(ヴィオラ)／佐山裕樹(チェロ) クァルテット・インテグラ 特別協賛：株式会社 安藤・間
	4	(水) 19:00	**ラファエル・アギーレ**(ギター) 特別協賛：株式会社 竹中工務店
	21	(土) 17:00	**アレクサンドル・タロー**(ピアノ) 特別協賛：清水建設株式会社
	31	(火) 19:00	
11／	1	(水) 19:00	〈ハーゲン プロジェクト 2023〉 **ハーゲン・クァルテット**(全3夜)
	2	(木) 19:00	

日時			公演
11／	24	(金) 19:00	**ティル・フェルナー**(ピアノ) 特別協賛：株式会社 安藤・間
12／	7	(木) 19:00	**フォーレ四重奏団** 特別協賛：株式会社 竹中工務店
	12	(火) 19:00	**ズラトミール・ファン**(チェロ)**&アレクサンドル・カントロフ**(ピアノ) 特別協賛：清水建設株式会社
〈ランチタイムコンサート〉 トッパンホールが選んだ若手ホープによるミニ・コンサート			［全席指定］
7／	6	(木) 12:15	Vol.122　**實川 風**(ピアノ)　**J.S.バッハ vs 爛熟のロマンティシズム**
8／	4	(金) 12:15	Vol.123　**五十嵐薫子**(ピアノ)　**真夏の挑戦！プロコフィエフのハ長調**
10／	11	(水) 12:15	Vol.124　**北村明日人**(ピアノ)**&落合真子**(ヴァイオリン)

※開場は開演の30分前となります。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。なお、全主催公演で託児サービスをご利用いただけます［有料・要予約］。
お申し込み・お問い合わせは(株) マザーズ 0120-788-222まで。

2023年6月中旬現在

最新情報はオフィシャルWEBサイトでご案内しています　※WEBチケットもご利用いただけます　www.toppanhall.com

INFORMATION

トッパンホール アンサンブル ――弦楽四重奏――

静と動うずまくスリリングな掛け合いで弦楽四重奏の新たな風景を現出

日本が誇る名手4人が、練りに練り上げたアンサンブルを響かせた4月25日。業界に一石を投じる企画は、発表直後から大きな注目を集めて当日を迎えました。昨年末から特別な情熱で丁寧に深めた弦楽四重奏の世界、当夜は作品への思いと作曲家へのリスペクトが交錯する、刺激的なひとときとなりました。

「常設でないアンサンブルで弦楽四重奏の最高峰の難曲を弾く」という、“タブーへの挑戦”ともいうべきチャレンジングなコンサートにご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。我々の予想を上回る反響をいただき、出演メンバーともども、とても励みになりましたし、感激しました。改めて御礼申し上げます。

本コンサートの意図については、チラシやトッパンホールプレス等に書いてきたので繰り返しませんが、このプログラムをそのまま弾いてくれる団体と巡り合わなかったというのも、こういう形を採ったもうひとつの重要な要因だったと言えましょう。

当初は10月からのリハーサルを計画していましたが、メンバーが皆、あまりにも多忙なため、2か月遅らせてのスタートになりました。延べ13日間の集中練習と1度の都内での試演会を経て、作品について、作曲家について、アンサンブルについて、個々のメンバーについて、私も含めメンバーそれぞれが本当に多くのことを知り学んだ時間となりました。また人前で演奏することでどれだけ得ることが多いのか、飛躍できるのかということも試演会、本番で改めて聴き手の皆さまの存在の大きさを痛感した時間にもなりました。

ヴァイオリン1st奏者の選定

作品構造に強い関心を持つ猶井さんにベートーヴェンと《6つのバガテル》を、歌と音の魅力が際立つ周防さんにシューベルトと《緩徐楽章》の1st vnを担当してもらいました。リハーサル初日に猶井さんから、「チラシにはウェーベルンは当日のお楽しみと書いてありますが、僕たちには事前にどちらが1stを弾くか通達してくれますよね」という懇願にも似た質問がありました（笑）が、両方のパートを事前に準備していただくことで、ウェーベルンのこの傑作についてより多面的なアプローチが出来るようになったように思いますが、いかがだったでしょうか。

当日曲順変更の理由

お問い合わせも多かったので、曲順変更についてご説明いたします。

当初から私の頭の中では、コンサート自体をウェーベルンの《弦楽四重奏のための緩徐楽章》で終えると決めていました。ただ、シューベルトの繰り返しをしないのであれば、発表通りの順で演奏してアンコールでもう一度《Langsamer》を演奏したいと考えていました。そしてシューベルトの繰り返しを行った場合には、コンサート全体が長くなるので後半の曲順を入れ替えるつもりでいて、結果として後者を採ったことになります。

これからもチャレンジングな試みを続け、クラシック音楽（とりわけ室内楽）の奥深さと魅力をアーティストと共に深掘りし、お客さまと共有していきたいと思っています。どうぞご注目ください。

（西巻正史／プログラミング・ディレクター）

真夏に響く、ひときわ熱いプロコフィエフ！

新しい才能との出会いが楽しめるトッパンホールの〈ランチタイムコンサート〉。フレッシュな若手アーティストの真剣勝負をお届けしている本シリーズが8月にスポットを当てるのは、ピアノの五十嵐薫子。昨年、第76回ジュネーヴ国際コンクールのファイナルで弾いたプロコフィエフ《ピアノ協奏曲第3番》で多くの聴衆を魅了、その様子はYouTube配信もされています。抜群のテクニックと明るく華麗な音楽が印象的な彼女が今回選んだ作品は、プロコフィエフ《チェロ・ソナタ》。本シリーズらしいチャレンジングな選曲に、五十嵐の並々ならぬ意欲が伝わってきます。共演は2020年の日本音楽コンクール・チェロ部門第1位の水野優也。現在、クレメンス・ハーゲンのもとで研鑽中の俊英です。トッパン初登場のふたりが、夏の盛りに繰り広げる熱いステージに、どうぞご期待ください。

〈ランチタイムコンサート Vol.123〉
五十嵐薫子(ピアノ)
真夏の挑戦！プロコフィエフのハ長調
2023年8月4日(金) 12:15
水野優也(チェロ)
プロコフィエフ：チェロ・ソナタ ハ長調 Op.119
入場無料(要予約／お一人様2席まで)
受付期間：2023/6/23(金)～7/14(金)
お申し込み方法：
［一般］ハガキ(抽選制・当選者のみ通知)
〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3
トッパンホールチケットセンター「ランチタイムコンサート Vol.123」受付係
(住所、氏名(フリガナ)、電話番号、希望席数を明記ください。)
［会員］電話

意欲漲る若手音楽家を応援！ 世界のマエストロが導く室内楽の真髄

『クァルテットは、ソロとオーケストラとを問わず、弦楽器奏者のすべての基本。だから、世界に通用する弦楽器奏者を育てるには、トップレベルの指導者による集中的なクァルテットの実習が欠かせない（小澤征爾）』――この信念のもと、小澤征爾が長野県の奥志賀高原で、若手演奏家のための勉強会を始めたのは、もう20数年も前のこと。2011年には「小澤国際室内楽アカデミー奥志賀」がNPOとして設立され、毎年オーディションで選ばれた若い才能が、約1週間、小澤氏が全幅の信頼を寄せる世界トップレベルの講師陣による指導のもと、大自然のなかで音楽に集中して向き合っています。

コロナ禍の影響を受け、オンラインでの講習なども含めながら継続してきた貴重な学びの場、その集大成ともいえる東京公演が、昨年に引き続きトッパンホールで開催されます。若いメンバーたちが披露する弦楽四重奏はもちろん、毎年恒例のアカデミー受講生全員による弦楽合奏は一期一会の響きを聴かせてくれます。奏者と聴衆がともに分かち合う音楽の愉しさに、ぜひ触れてみてください。

2023 小澤国際室内楽アカデミー奥志賀 東京公演
2023年8月1日(火) 19:00
2023 小澤国際室内楽アカデミー奥志賀 受講生
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第4番 ハ短調 Op.18-4
メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲第1番 変ホ長調 Op.12
グリーグ：組曲《ホルベアの時代より》Op.40
ほか
※全曲抜粋演奏
全席指定：4,000円／学生1,500円
主催・お問い合わせ：小澤国際室内楽アカデミー奥志賀事務局 03-3484-3500
チケットのお申し込み：トッパンホールチケットセンター

表紙：ハーゲン・クァルテット

世界最高峰の一角を担う存在にして、言わずもがな“弦のトッパン”を象徴するクァルテット。開館初期以来の長きにわたり、〈ハーゲン プロジェクト〉をはじめとする数々の企画をともに作り上げてきました。そんなレジェンドがアイコンタクトを交わす瞬間をとらえた一カット。2019年以来久々の登場となる今秋。「アジアの我が家」での3夜連続公演にご期待ください。

編集後記

プレガルディエン&ゲースの胸に迫る名演で幕をあけた22/23シーズンも、気づけば残りわずか。名匠たちの圧倒的存在感に心酔し、若手の躍進に感嘆、新しい顔ぶれとの出会いに胸躍らせた、いずれの公演も得難く充実の一年でした。みなさまの心にも特別なひとときとして刻まれていましたら嬉しいです。しかし、振り返ってみると一年とはあっという間、時が経つのが早くなったなぁと、ついついボヤいてしまうのでした（笑）。今号は、この秋から半年の公演について特集しました。来たるシーズンも楽しみにお待ちいただけたら嬉しいです。（雪）

発行日：2023年7月1日　発行・編集：株式会社トッパンホール 広報部　〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3　(03)5840-2200　https://www.toppanhall.com/　制作：株式会社トッパングラフィックコミュニケーションズ　印刷・凸版印刷株式会社

©TOPPAN HALL 2023.7 KI　※当紙に掲載している内容について、許可なく複製あるいは転用することを固く禁じます。